

問 音声他、機能の充実を

答 検討課題とする

大倉 澄子 議員

問

①要約筆記、手話サークルなどポランティアグループが聴覚障害者に対し話を理解する活動をしているが、聴覚障害者への音の伝達視覚障害者の誘導などに役立つ集団補聴器を会議室福祉施設などへ設置してはどうか。社会大学等へ参加し、交流を深めたいが聞きとりにくい時もあり疎遠になりがちな高齢者も多い。

②携帯電話のマナーが問われている。携帯電話と同一周波数を出し通話もメールも出来なくする抑制装置を設置してはどうか。電波が電子医療機器に障害をおこさぬよう病院への装置導入の動きも出始めている。電源切り忘れ

による事故にも有用との意見もある。

③生活保護家庭の扶助状況は有益かつ的確で不正はないか。生活困窮家庭に対する愛の手は差し伸べねばならぬが不正な実態風評もれ聞こえる。民生委員などによるチェック機能の充実は十分か？

福祉部長

①二一

ズも含め検討課題にしたい。②必要な場として公立病院がある。施設管理者、医師の意見をきき検討する。③民生委員を交え相談決定している。誤解なきよう適切かつ厳格に指導し支援していく。宍粟市で約100世帯です。

問 預かり・学童保育の利用料金統一は中止を

答 利用条件の整備をした

岡前 治生 議員

問

預かり保育と学童保育は制度がバラバラのままで、利用料金だけを統一することは理解できないことである。しかも、少子化対策の充実が必要ときに、利用料金の引き上げを市民におしつけるようなことはあってはならない。利用料金の統一は中止し、まずは、サービスを統一すべきではないか。

市長

利用条件の整備をしたただけである。

問

敬老祝金などの福祉が後退したとの感じを受ける。住民負担を統一するときは、一番負担の低い町にあわせるべきであるし、住民サービス

問

スは一番手厚い町に統一、旧町独自のサービスは全市適用、を原則に行うべきではないか。

市長

宍粟はひとつという考えで受益と負担の公平を図っている。

問

市長は新庁舎の建設を急ぐ考えであるが、新市建設計画では、建設時期は平成24年から26年である。計画どおりにして、市民サービス充実や負担の軽減にこそ、力を注ぐべきではないか。

市長

現状では効率的な運営ができないし、山崎市民局も老朽化しています。

問 介護保険料の値上げ凍結を

答 基金活用で値上げを抑えたい

山下 由美 議員

問

来年の4月から介護保険料の値上げは避けられない状況であると議会において明言された。また、委員会では、月額4,200円から4,300円になる見込みであると説明された。介護保険料の値上げを抑えるために、基金の活用や、一般会計から繰り入れを行うべきです。

問

障害のある中学生や高校生が養護学校等の下校後に活動する場の確保とともに障害児を持つ親の就労支援と障害児を日常的にケアしている家族の一時的な休養を目的とした、国の施策である「障害児タイムケア事業」を、宍粟市でも実現できませんか。

福祉部長

今後、検討するべき案件であると考えていますし、障害者プラン作成の中でも検討課題にあがっています。

福祉部長

基金を、保険料の値上げを抑えることに活用したいと考え今、調整しているところです。一